

日本医史学雑誌 第四十二卷第三号 目次

口 絵

故大鳥蘭三郎先生 一六三

原 著

華岡青洲の麻醉法の普及について—福井藩橋本左内による手術症例の検討 松本 明知 一六九

財団法人・日本医学専門学校の学校騒動と私立東京医学専門学校の独立分離(上) 唐沢 信安 一〇三

カスパー・シャムベルケルと「カスパー流外科」(上) ヴォルフガング・ミヒェル 三三

『医心方』に記述される「経義解」の検討 真柳 誠・沈 澍農 三九

研究ノート

西洋・中国・日本のジフテリア史素描 その2 近世 中村 昭 三六九

広 場

マイモニデスの銅像・墓・ヘブライ語表記 泉 彪之助 三六九

資 料

小島宝素著・森立之写『河清寓記』釈読(上) 町 泉寿郎 三九

追 悼

大鳥蘭三郎先生の御経歴 大村 敏郎 四一

大鳥蘭三郎先生の御逝去を悼む 蒲原 宏 四四

追憶の大鳥蘭三郎先生 大塚 恭男 四七

大鳥蘭三郎先生の想い出 酒井 シヅ 四九

恩師を偲んで 大鳥蘭三郎先生の三つの顔 大村 敏郎 四三

記事

消息

稲村三伯の「ハルマ和解」完成二〇〇年記念事業……………森 納……………四六
 蛭田玄仙先生顕彰碑建立及び生誕二五〇年祭の記……………蒲原 宏……………四七
 日本医史学会関西支部一九九六年春季大会……………長門谷洋治……………四〇
 例会抄録……………

五行——中国古代医学の枠組み概念 其の二……………家本 誠一……………四三
 三才——中国古代医学の枠組み概念 其の三……………家本 誠一……………四四
 室町時代より江戸初期までの灸技術について……………角谷 貞雄……………四五
 ハーヴェー以前の血液循環理論について……………藤倉 一郎……………四七
 オランダ商館長の住友銅吹所見物と饗応・贈答……………片桐 一男……………四八
 着想としての内視鏡……………多賀須幸男……………四一
 森鷗外作「なかじきり」解釈の試み——「医」に関する言及をめぐって……………志田 信男……………四二

紹介

クリストファー・ゼクストン著・丸田浩ほか訳『バーネット・メルボルの生んだ天才』……………山中 太木……………四四
 石田純郎著『ヨーロッパ医科学史散歩』……………今泉 孝……………四六
 杉田暉道・長門谷洋治ほか著・系統看護学講座別巻9『看護史』……………新村 拓……………四七
 新村拓著『出産と生殖観の歴史』……………平尾真智子……………四八
 医史学文献目録 平成六(一九九四)年……………順天堂大学医史学研究室編……………四〇

〈本号の表紙絵〉

宝暦6年(1756)の人体解剖図

近年、慶應義塾大学の磯野直秀教授が日本解剖学史における新発見をされた。そこで磯野教授のご同意を得て、その報告(『宝暦六年の人体解剖図』『科学医学資料研究』240号、1994)より写真を表紙絵に転載させていただき、広く斯界に紹介することにした。

この解剖図は東京国立博物館蔵・木村蒹葭堂旧蔵写本の『随観写真』(20巻10冊)に載る。本書は田村藍水に本草を学んだ後藤光生(1696-1771)の編で、宝暦7年(1757)の序文はあるが、同12年までの注記があることなどから、完成は宝暦末年か明和初年らしい。

解剖図は右が正面、左が背面で、ともに彩色されている。右に「宝暦六丙子八月、東都官医集会於千住刑場、而令屠見解罪人之全軀、即図之」とあり、宝暦6年(1756)8月に幕府医官が千住刑場で死刑囚の遺骸を解剖させたときの絵図と分かる。山脇東洋が京都で観臓した2年後である。従来知られていた江戸でもっとも早い解剖記録は、明和8(1771)の千住小塚原での腑分だった。一方、『蘭学事始』はそれ以前にも江戸で解剖が行われていたことを記すが、具体的証拠がいままでなかった。それが『随観写真』から現れたのである。しかし解剖に参集した幕府医官などの記録はまだ発見されていない。今後の研究が期待され、ここに紹介した所以である。

(真柳 誠)